

〒102 東京都千代田区五番町 10-2
TEL(03)3262-8211 FAX(03)3261-2204

第 8 回環境工学連合講演会

- ①日本学術会議環境工学研究連絡委員会
 - ②資源・素材学会ほか 24 学協会
 - ③日本鉄鋼協会, 他
 - ⑤平成 5 年 1 月 19 日(火), 20 日(水)
 - ⑥日本学術会議講堂
 - ⑬資源・素材学会「第 8 回環境工学講演会」係
- TEL(03)3402-0541 FAX(03)3403 1776

**第 42 回システム制御情報講習会
ウェーブレット/フラクタル
カオスの基礎と応用**

- ①システム制御情報学会
- ③日本鉄鋼協会, 他
- ⑤大阪 平成 5 年 1 月 21 日(木), 22 日(金)
- 東京 平成 5 年 2 月 4 日(木), 5 日(金)
- ⑥大阪: 三田出版会 大阪事務所
東京: ダイヤモンド社 10 階ホール
- ⑦大阪: 100 名, 東京: 100 名
- ⑧会員 35,000 円, 学生 15,000 円,
非会員 50,000 円
- ⑭〒606 京都市左京区吉田河原町 14 番地

近畿地方発明センタービル
システム制御情報学会第 42 回講習会係
TEL(075)751-6413 FAX(075)751-6037

**第 19 回国際会議のための準備
セミナー ——英語によるプ
レゼンテーションの実際——**

- ①日本工学会
 - ⑤平成 5 年 2 月 20 日(土), 21 日(日)
 - ⑥OVTA-幕張海外職業訓練センター
[千葉市美浜区ひび野 1-1]
 - ⑦18 名
 - ⑧参加費 80,000 円, 宿泊費 18,000 円
 - ⑭〒107 東京都港区赤坂 9-6-41
乃木坂ビル 日本工学会
- TEL(03)3475-4621 FAX(03)3403-1738

**第 2 回粉粒体の円滑な流れに
関する国際シンポジウム講演
募集**

- ⑤平成 5 年 8 月 23 日~25 日
- ⑥ノルウェー国, オスロ市
- ⑭平成 4 年 12 月 1 日
アブストラクト: 300 語以内
平成 5 年 5 月 30 日 ノルテキスト提出
- ⑬Prof Sunil R. de Silva,
Dr. Gisle. G. Enstad,

POSTEC-Research A/S,
Kjolnes Ring,
3900 Porsgrunn, Norway
(FAX + 47 3 55 96 30)

⑭〒060 札幌市北区北 13 条西 8 丁目
北海道大学工学部合成化学工学科
篠原邦夫 TEL(011)716-2111(内)6590
FAX(011)726-4454

**XXXVI th International Collo-
quium on Refractories 1993**

- ① The Forschungsgemeinschaft Feuer-
feste. V.
- ⑤平成 5 年 9 月 27 日, 28 日
- ⑥Aachen, Germany
- ⑭平成 5 年 3 月 12 日(アブストラクト)
平成 5 年 6 月 30 日(論文)
- ⑭Secretariat
The Forschungsgemeinschaft Feuerfeste.
V.
—Feuerfestkolloquium—
An der Elisabethkirche 27
D-5300 Bonn 1
TEL(0228)91508-45 FAX(0228)9150855

ブックレビュー

●ユーザーのための鑄造品ハンドブック●

日本鑄物協会編(TEL 03-3541-2758), 1992 年 6 月
丸善株式会社発行
B5 判 472 頁, 定価(税込) 25,750 円

本書は、「ユーザーのための鑄造品ハンドブック」というタイトルに表されているように、鑄物専門家とともに、鑄物を製品に使用しようとする読者を対象としている。このため、鑄造プロセスの記述は最低限に留められ、各種造材料の特性、用途、加工技術などに力点が置かれている。

第 1 章の総論では、鑄造品の製品としての位置付け、精度、設計上の特徴、品質保証、原価低減について論じている。第 2 章では、各種鑄造品の特性および特徴が材質別にまとめられ、材料選定に必要なデータが記述されている。第 3 章では、鑄造品の用途が材料別、産業別に述べられ、鑄造品選定の留意点なども詳述されている。第 4 章は、鑄造品を機械部品として使用する場合に必要な機械加工技術、接合法に加え、耐食・耐摩耗処理法についても触れている。また、巻末には鑄造材料の物理的性質、化学的性質、機械的性質がデータとして集録してある。

執筆者の半数以上が企業の技術者、研究者であることから記述内容は実務的で、読んでいても明快で面白い。一時は 3K と言われて沈滞気味だった鑄造の分野だが、視点を変えて見てみると、大きなポテンシャルが感じられるのも、本書の企画の的確さかもしれない。次段として、この種の学生向き教科書を期待したい。

(東京大学工学部 鈴木 俊夫)